

令和6年 第1回能勢町総合教育会議 会議録

1. 開会日時及び場所

日時：令和6年3月28日（木）午後1時00分

場所：能勢町役場 本館第2会議室

2. 出席者

町長 上森 一成 教育長 加堂 恵二 教育長職務代理者 中澤 安弘

委員 市村 依子 委員 的場 麻子 委員 泉 孝英

3. 事務局職員出席者

総務部長 藤原 伸祐 秘書人事担当係長 濱 和也

4. その他出席職員

教育次長 百々 孝之 学校教育総務課長 奥 成久

学校指導担当課長 川本 重樹

5. 議事の次第

藤原部長

定刻となりましたので、ただいまから「令和6年 第1回能勢町総合教育会議」を開催します。

教育委員の皆様には、年度末で何かとご多用のところ、ご出席いただき誠にありがとうございます。本日の会議につきましては、能勢町総合教育会議の規定により、町長が招集させていただくこととなっております。

開会に当たり、主宰者である上森町長からご挨拶をさせていただきます。

上森町長

皆さま、こんにちは。本日は年度末のお忙しいところお集まりいただき誠にありがとうございます。本日は義務教育学校3年を迎えるにあたりということでご意見を賜りたいと思っております。教育におきましては様々な課題や問題が起こっておるところであります。こういう機会でございますので忌憚のないご意見を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

藤原部長

先ほど、町長からもありましたが、能勢ささゆり学園は令和4年度から義務教育学校へ移行し本年4月に3年目を迎えます。

本日は、この2年間の取り組み状況や今後のめざすべき方向性などについて、特に後ほど説明がございますけれども一部課題が見られるということですので、この点についてご協議をいただければと考えております。

それでは、この先の議事進行につきましては、能勢町総合教育会議運営要綱第2条の規定に基づき、議長である上森町長をお願いいたします。

上森町長

それでは、次第に基づき議事を進めさせていただきます。次第のとおり「義務教育学校3年目を迎えるにあたって」について、教育委員会事務局からご説明させていただき、皆様からご意見をいただき、今後の取り組みに生かしていきたいと考えております。

議事に入ります前に、能勢町総合教育会議運営要綱第5条の規定に基づき議事録の署名委員を指名いたします。本会議の議事録署名委員につきましては、市村委員、的場委員にお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

市村・的場委員

了解。

上森町長

よろしく申し上げます。

それでは、次第に従いまして教育委員会から説明を求めます。

百々次長

これまでの経過について簡単にご説明させていただきます。平成28年に6小2中を再編整備し、施設一体型として能勢小学校・能勢中学校が開校しました。開校から5年が経過し義務教育学校9年間の全体像を把握し子どもの発達段階に合わせ段差そのものをデザインし、長期的な視野の下で小中それぞれの教育観を共有し教師の指導力の向上や意識改革を図る。また、学校や地域との連携共存のもと教育コミュニティの再構築を推進していくために義務教育学校へ移行することとしたものです。令和3年1月の総合教育会議におきましては義務教育学校への移行について協議をいただき、その後教職員、保護者への説明会など必要な準備を進め令和4年4月に義務教育学校を開校したところです。開校から2年が経過し成果と課題が見えてきており、その内容につきまして資料1にまとめております。また資料2につきましては、教職員の数や現在の児童数の推移を年次別に示した表を作成しております。資料の説明につきましては川本課長からご説明申し上げます。

川本課長

まず始めに資料2の全校児童生徒数の推移につきまして説明します。令和元年が488名で令和6年の見込みは417名となっております。令和元年度時点における児童生徒数の推移の見込みでは令和6年度には385名と予測しており、出生数から算出しているものと考えますが、実績としては予想より減少幅が緩やかになっております。近年、転入生が増えており、この影響があるものと見ております。

それでは、義務教育学校3年目を迎えるにあたってと題した資料について説明させていただきます。

Ⅱ 移行時のスローガンですが「もっと地域とともに」「もっと新しい学びへ」「もっとチームに」を掲げて義務教育学校へと移行しました。

Ⅲ 成果ですが、後期課程における地域との連携が充実しました。前期課程においては社会科の学習や総合学習などで昔あそびや米づくりなど地域と関わる機会が多いのですが、後期課程になると受験を控え地域との関わりが薄く

なる傾向にありましたが、地域事業所インターンシップ、けやき Marathon、防災学習などを実施して地域との関わりも出てきたのかと思っています。令和5年度大阪府教育庁「こころの再生」府民運動@スクール表彰 SDGs 部門で今年度表彰していただきました。これは防災合宿の取り組みについて受賞したものです。2つ目は人権教育を基盤とした学校づくりということで、能勢町が昔から大切にしてきたことがしっかりと継承されていると思われます。これについても令和4年度に文部科学省「人権教育研究推進事業」を受託し人権教育研究指定校となりました。これによりLGBTQやインターネットに関わる人権侵害など新しい人権問題に取り組む機会となりました。3つ目はチーム学校としての体制の充実です。平成28年に1校へ統合された時よりも義務教育学校へと1つの学校になったことにより校務分掌が一本化したり、行事の工夫が始まったり前期課程における教科担任制の充実が図りやすくなりました。これらの成果として、令和4年度 日本漢字能力検定「特別賞」受賞。令和5年度 大阪府教育庁「体力づくり優良校」表彰。令和5年度 公益財団法人関西みらい教育文化財団の助成をいただくなど、ささゆり学園が取り組んできた成果として認めていただいた1年であったと思っています。資料1の右側にはどのような学校運営や行事を行っているのか一覧表にしておりますのでご覧ください。

最後に課題についてですが、たくさんある中ですが2つだけ掲げております。個別に対する課題対応の増加ということで、学び方が多様化しています。ICTが導入されたこと、不登校の子どもへの対応や支援学級、通級指導教室、また近年は日本語指導が必要な児童・生徒が在席しているなど、以前にはなかったような対応が増加していると感じるところです。2つ目は働き方改革ということで、その1つが部活動の地域移行ということで、令和7年度末まで休日の部活動に関する改革推進期間ということで土日のクラブ活動を地域に任せるという趣旨の文書が文科省から出ておりますが、難しい状況であります。もうひとつは、教員、講師、介助員等の人材の確保ですが、報道等でもありますようになかなか難しい状況です。以上、簡単ではありますが説明を終わらせていただきます。

上森町長

私からお伺いするのですが、現在、義務教育学校は府下で何パーセントほど開校しているのでしょうか。

川本課長

小学校は962校中10校(1.03%)、中学校は457校中10校(2.18%)となっています。

加堂教育長

本校は府下で8番目に開校し、今後も増えていく傾向にあります。

上森町長

近年、外国人労働者が増加傾向にあるように思いますが、ささゆり学園における外国籍の児童・生徒の割合は分かりますか。

川本課長

外国籍の児童・生徒は在籍しておりませんが、保護者のルーツが外国籍であ

る方はいらっしゃいます。

学習言語という学校現場で使う特有な言葉を理解できない児童が学年が上がるにつれ増えサポートが必要となる傾向にあるため、低学年のうちからサポートするように大阪府から外国人児童生徒支援員に週数回来ていただいて授業に入りサポートしていただいております。

上森町長

外国籍をルーツとされる方が町内にお住いになり、子どもさんがささゆり学園に通学される中で、日本語のサポートを必要とする児童・生徒が増えているということですね。

川本課長

はい。

上森町長

委員さんからご意見を頂戴したいと思います。よろしくお願いします。

泉 委員

義務教育学校に移行してPTAと学校の関わりについて何か変化はありましたか。

川本課長

従来は、小学校と中学校のそれぞれのPTAでしたが1つのPTAになったこと、それとPTAが任意加入となり、現在の加入率は7割程度と聞いています。

的場委員

PTAから卒業生に記念品を贈ると思いますが、全生徒が対象なのでしょうか。

川本課長

任意加入に変更して2年であり、今加入されていない児童・生徒も過去には加入していたということで、今のところは従来のまま全卒業生が対象と聞いておりますが、数年後には検討していかないといけない課題だと思っています。

上森町長

PTAというのは全員加入するものではないのですか。

加堂教育長

昔はそうでした。

上森町長

義務教育学校に移行してから選択制にしたということですか。

加堂教育長

PTAは任意団体であるため、義務教育学校のスタートに合わせて選択制にしたところです。

上森町長

PTAの加入率7割という数字は多いのですか。

奥 課長

本校の児童生徒数からすると3割が未加入となると影響は大きいと思います。役割や宛職が多く、次年度はPTAでもあり方を見直されるそうですが、会長の負担が大きくなるので輪番にするなど検討されるようです。

中澤委員

私の経験では、PTAに入らない方は入らないなりの信念をもっておられ9割8分くらいは加入されていました。時代も変わっていますが加入率7割というのは少ない気がします。

上森町長

アンケートを実施して進められているので、大きなトラブル等は発生していないのでしょうか。

奥 課長

中澤委員がおっしゃるように7割は少ないうえに、本町は兄弟が居る家庭が多いので世帯の構成からするともっと少ない感覚になります。

市村委員 この前、学校教育診断の結果を見せていただいて、年に1回保護者が学校に対してどのように思っているのかアンケートされていて、回答率が7割と伺い非常に高くそれだけ学校に関心があり期待されていると感じ、良いことだと思っていました。そうした中で、先生と生徒との関係はどのような雰囲気です学校運営がされているのでしょうか。

川本課長 学校の指導としては皆に優しい方向になっていると感じています。一人ひとりを認める考えが浸透しており、人権を大切にすることにつながっていると思います。それを代表するものが制服の自由化だと思います。一人ひとりの趣味嗜好に合わせるというメッセージだと思っています。

市村委員 問題が発生したときに信頼関係があれば、そんなに問題も大きくなりませんと思います。

泉 委員 課題のひとつとして部活動の充実があるのではないかと思います。部活動に力を入れて取り組んでいる学校は多いかと思いますが、本校においても対策を実施してもう少し部活動が活発になれば良いと思います。指導員の問題が大きいですと思いますが、少しずつでも進んでいただければと思います。

上森町長 泉委員のご指摘は、部活動を指導する人材が不足しているという認識でしょうか。

泉 委員 教員ではなく、専門的な人材が不足していると思います。部活の活発な学校は生徒同士・先生との関わりなど部活動を通して、良い繋がりがあるのではないかと思います。

上森町長 本校では現在、外部の指導員に来ていただいているのですか。

奥 課長 バレーボール部で会計年度任用職員として来ていただいています。この課題は、市民団体など地域移行の指導者という話ですが、こちらにしても本町の実態からすると地域移行ではない活動のあり方を学校と協議しています。体育連盟にもお声掛けしましたが、1人の方が複数の委員を兼ねておられるケースが多く、自分も引退して誰かにお願いしたいという意向があり、協議しているところですが、都市部のように市民クラブに依頼できる状況ではありません。

上森町長 地域に専門人材が少ないということですね。

奥 課長 少ないですし、重複して活動もされています。

加堂教育長 部活動の地域移行の問題ですが、2つの大きな要因があって、ひとつは教員の働き方改革、それから子どもの希望に合う種目なり分野の減少が挙げられます。文科省もトーンを下げてきたのですが、先ほど泉委員がおっしゃったように、学校のクラブ活動は非常に大きな教育活動だと思います。一緒に汗を流した仲間は一生の友達で、また指導を受けた先生の言葉は一生残るもので、教育として非常に大切な分野だと思います。ところが指導要領では教育課程外の活動になっています。日本は諸外国とは違う形でやってきました。すなわち今も

甲子園でセンバツ高校野球が開催されていますが、クラブ活動は学校でという形でやってきましたので、外国のように地域のクラブチームが子どもの好きなことをさせるという手法へ一気に移行することは難しいと思います。文科省の方針を受けて静岡県掛川市では令和7年度から、全ての中学校のクラブ活動を無くして地域にそれを任せることになっておりますが、掛川市はそれを受け入れる、指導できる体制があるので実現できますが、本町ではなかなか厳しいところだと思います。生徒と先生との関係は大切だと思うので地域移行ではなく、クラブ活動の支援員を1人でも多く発掘して活動支援として協力いただける方を探ることが本町の実情に合っているのではと考えています。

上森町長
川本課長
上森町長
川本課長

バレーボール部でお世話になっている方はこちらからお願いしたのですか。元々は保護者の方で、その頃から来ていただいております。

クラブ活動は前期課程では実施していないのですか。

クラブ活動は前期課程を対象に月1回程度実施しており、部活動として5年生6年生を対象に義務教育学校に移行したときから体験入部期間として週2回程度クラブに参加する機会が増えております。

上森町長
奥 課長

クラブ活動に参加する生徒は多いのですか。

クラブへの加入率は昨年度より本年度の方が高くなっており、5年生から6年生の7割程度が加入し、上級生と部活動に励んでいます。

上森町長
川本課長

学校現場においてコロナ禍の影響が残っているとか、変化等がありますか。

学校行事が通常に戻ってきた感じがしています。コロナ禍を経て行事の時間を凝縮して実施するなど大きな改革をしながら、出来ていなかったことが出来るようになっていきます。

上森町長
川本課長

義務教育学校に移行して劇的に変化したことや反対に改善を必要とするところはどのようなところですか。

義務教育学校への移行においては劇的な変化は生じていないと感じています。むしろ平成28年の6小2中の再編の方が劇的な変化であったと思います。

義務教育学校に移行して「チーム学校」になったと感じています。これまで教員も小中それぞれの所属で校務分掌も別々でしたが、今は一体の校務分掌で運営しているので子どもの指導も一体で行うことになり、行事についても例えば1年生から4年生と5年生から9年生と割り方をそれぞれしているのが様々な関わりが出ていると感じています。中身がバージョンアップされたと思います。

上森町長
川本課長
上森町長

逆に改善点はありますか。

悪くなった部分は無いと思っており、今は非常に良い雰囲気だと思います。

体育大会を見せてもらいましたが、5年生と9年生が一緒になって取り組んでいる姿や4年生が1年生をサポートしている姿を見て良いなあと思いまし

た。体育大会だけでなく色々な行事について分け方を工夫して取り組んでいる
のですね。

川本課長
中澤委員

そうです。

平成 28 年と比較して小・中の先生方同士の繋がりが大きくなったと思いま
すし、小・中の壁が無くなって1つの学校になって良かったと思います。そし
てこれからは子どもの経年変化をしっかりと見て欲しいと思います。例えば学
力テストや体力面もそうですが、何年生から何年生の間にどれだけ伸ばすか
という目標をもって取り組んでいただきたいと思います。子ども達をどれだけ伸
ばすかということが学校に求められるものではないかと思います。

百々次長

学力テストの結果や体力面についてはホームページでも公表しており、それ
を見ていくと対象の学年ごとに見ると一定向上している傾向にあります。ただ
ご指摘のように学年ごとの学力の差もあることから、そこをどのように伸ばし
ていくかという意味においては年次の推移は大事だと思います。教員の繋がり
の話で言いますと小・中の壁もなくなっており、子どもたちを全ての教員が見
守っているという感じがあり、子どもの情報を教員が共有できており、子ども
をきちんと見るという意味において一校になったことは大きなメリットであ
ったと思います。

上森町長

課題は色々あるが・・・と説明の中で報告がありましたが思いつく課題とは
何ですか。

川本課長

中澤委員がおっしゃるように学力向上です。全国学力学習状況調査や体力面
も同様ですが、全国平均を上回ることを目標にしていきたいと思います。ただ
それだけを目標にするのではなく非認知能力を鍛える取り組みをする中で、学
力も向上すれば一番良いと考えておりますので、そのような取り組みを進めて
いかなければならないというのが課題であると思います。教職員がひとつの集
団となって研究する取り組みが進んでおり、小学校の授業を中学校の先生が実
施したり、またその逆もあり全体的な学力向上に繋がるよう力を入れていくべ
きと考えております。

中澤委員

I C Tを活用した授業を課題として取り上げていただいておりますが、学力
調査のアンケートだったと思いますが、他に比べてI C Tを活用している割合
が高かったように記憶しているのですが、そうではなかったでしょうか。

百々次長

はい。ここに課題として挙げておりますのは、1人1台I C T端末を導入し
てI C T教育を充実してきましたが、一定の年次が経過する中で機器更新や今
後、本格的に導入するには自宅に持ち帰っての学習や不登校児の対応にどのよ
うに活用するかという部分を課題として挙げており、学年ごとの差はあるもの
の、持ち帰っていただいて十分活用いただいていると聞いております。

市村委員

「能勢らしさ」とか「能勢ならでは」を大切にいただいて、それを自慢

できる学校になれば良いなと思います。都会の学校ではできないことがたくさんあると思うので、これからも取り組んでいただきたいと思います。

上森町長

コロナ禍も収束し、これまで実施できていなかった行事等を復活していく予定はありますか。

川本課長

はい。

上森町長

資料には、教員・講師・介助員が不足しているという記載がありますが、他に人材不足というのは、どのような職種があるのでしょうか。

川本課長

全ての職種です。

上森町長

学校現場だけでなく、行政の現場も人手不足で、なかなか集まらないという現実がありますが、必要な教員数が集まらない場合は、結果的にどのようなのでしょうか。

加堂教育長

教員採用試験を受験する学生がかなり減少していると聞いています。教育学部の学生ですら受験する学生が少ないと聞いています。豊能地区は倍率としては比較的高い方ではありますが3倍を切ったら厳しいと言われるなか、そのような状況になりつつあります。もし教員が足らなければ他の教員でカバーすることになるのですが、中学校では教科が決まっていますので、残っている教員で対応することになり厳しくなるだろうと思います。

介助員は府費負担ではなく市町村負担ですが生活の身辺介護を必要とする子どもについて、これまで本町ではマンツーマンの体制で介助してきましたが、最近は介助を必要とするケースが増えているため次年度は対象者1人に1人の介助員で対応することは難しい見通しです。

上森町長

民間企業でも人手不足の状況であり、新たな課題として、今後は人が集まらないという前提で物事を組み立てていかなければならないのかもしれない。

豊能地区の学校では、どこも同じような状況なのでしょうか。

中澤委員

豊能地区内の他の学校では、小学校の入学式で1年生の担任が揃わず、担任発表において、担任は未定で明日赴任します、という学校があったと聞いたことがあります。

私の現役時代の経験でも、年度当初は職員が揃っていましたが、年度途中で休職され3人欠員になったことがありました。4月に公務分掌が決まっていたそのうえで、突然お休みされ補充人員もないというかなり厳しい状況でした。

上森町長

先ほど、PTAに7割しか加入されていないというお話がありましたが、保護者の方はそのような状況を問題なく受け入れていらっしゃるのでしょうか。

的場委員

私の子どもは後期課程となり、前期課程の保護者と関わることが少なくなり何とも言えないところはあるのですが、登校班が一緒だった保護者のお話を聞いてみると、PTAに入ると役員が当たるので加入しないという声を聞いたことがあります。私も旧校の頃からPTA委員を務めた経験があり、対象家庭数

が少なく役員を務めることは仕方ないという感覚がありました。実際に活動に参加すると色々な保護者の方と接する機会もあり楽しかった記憶があります。PTA役員も昨今は出番も減っているので、親同士の繋がりなどプラス面があることを知って欲しいと思いますが、ネットやニュースでネガティブな報道をされるのも影響があるかと思います。

上森町長

色々なご意見を頂戴しましたが、義務教育学校に移行して2年が経過し、私は移行して良かったと思っております。しかし、一方で課題も見えておりますので、教育委員さんとも情報共有していただき、行政としても関わるかと思っておりますので、3年目4年目に向けて引き続き連携していきたいと思っております。今後も総合教育会議において意見交換していきたいと思っております。

外国人の方への対応や人材が不足する問題。人権教育の範疇が広がっており、個人の思想や思考を尊重することは重要なことと思いつつ、学校という集団の中で学ぶ・行動するということは基本でもありますので並行して取り組んでいただきたいと思います。

加堂教育長

「義務教育学校3年目を迎えるにあたって」ということでご意見をいただきましたが、義務教育学校になって2年間、そして再編統合から8年間の中で、大きなトラブルや事件事故がなくここまでこられたことについて、校長先生をはじめ教職員の皆さん、保護者の皆様など皆様方のおかげであると感謝しております。平成28年の劇的な変化を受けて、義務教育学校への移行は出来るだけ劇的な変化にならないように進めて参りました。平成30年度から校長を1人体制とし、令和2年度に町長選挙の公約に義務教育学校を掲げていただき、11月には小中高一貫教育研究発表会の冒頭の挨拶で、義務教育学校への移行をめざすことを表明しました。その後、1年間かけてプロジェクトチームを作り、目指すべきスローガンの下で1年かけて現場の先生方に影響が出ないように、子ども達に大きな変化とならないように準備を進めてきました。

府下で8校目という事例も少ない中で、視察におじゃました先進地の校長先生からは1つにしても落ち着くまでには4年から5年は必要と言われておりましたが、この2年間で校務分掌の1本化や教科担任制を6年生から実施するなど、思っていた以上にスムーズに義務教育学校に向けて進んだと感じています。今後は職員室の中で前期課程・後期課程を越えて1人の生徒の話で先生方が気軽に話し合える雰囲気になれば、本当の意味で1つの学校になれるかなと期待しているところです。次年度は義務教育学校3年目となるので、学校のカラーというか特徴というか、基礎を作る年となるので2年間なり8年間の中でやってきたことについて「変えるべきこと」と「続けるべきこと」をきっちり見直して、能勢ならではの教育が出来ればと考えています。

上森町長

他に委員さんからご意見はございませんか。

色々ご意見を頂戴ありがとうございました。色々課題もあろうかと思いますが、本町に唯一の学校でありますので、こういう会議を重ねながら、より高みをめざしていきたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。それでは、以上で令和6年 第1回能勢町総合教育会議を終了します。ありがとうございました。

(閉会 午後2時00分)

上記は、会議の経過（要旨）を記したものであり、これを証するためここに署名する。

委 員 市村 依子
委 員 的場 麻子